



樹種や産地も多彩に、全国から集めた一枚板の圧倒的な在庫量。
それらの材をテーブルなどの最終製品に仕上げる加工機も充実。



全国から仕入れた一枚板が並ぶ自社倉庫

どんな事業をされていますか？

県内の木材流通業2社に勤務し、建具を学び、販売の経験をした後で、谷田木材を立ち上げた。当初は、造作材・建具材の仕入れ販売をしていたが、需要の変化でこれらの売上が減少したため、他を違うことをやろうと思い、テーブルやカウンターに使用する一枚板の仕入れ販売を開始し、現在に至る。一枚板をテーブルやカウンターの天板として使うには加工が必要であるため、表面仕上げ、反り止め、塗装、脚の取り付けなど、すべて自社の職人たちが手掛けている。天板をつなぎ合わせるジョイント加工やデザイン性を高めるレジジン（樹脂）処理等、製品価値を高めるさまざまな加工も行っている。

希少な材、良質な材を求めて、北海道から九州まで全国の製品市場に販路開拓を兼ねた仕入れに出向き、豊富な在庫を確保するために、会社周辺の3か所に倉庫を保有している。販売先は工務店、設計事務所、木材卸、商社など幅広いが、月に一度、自社倉庫でエンドユーザー向けの販売会も実施している。



社屋と隣接する本社加工場



一枚板の反りを直す高周波プレス



板材が積み上げられた自社倉庫

事業の特長や強みは何ですか？

自社で一枚板の加工するための複数のマシンを保有していることが強みである。事業の転機となったのが、材の幅1250mmまで対応できるプレナーサンダーの導入であり、その後も、反りやねじれのある一枚板を平らにする高周波プレス機、平面出しと厚み調整が同時に行えるバーチカルプレナーなどを加え、製品の品質向上に努め、他の同業者ではできない加工に対応できる体制を構築している。

マシンを使いこなすにはスタッフの技術力が重要で、20代から60代まで、幅広い年齢層の加工担当者がおり、技術の伝承を図っている。若手スタッフの出身地は、地元だけではなく、長野の職業訓練校の卒業生をはじめ、沖縄や仙台など、広い範囲から人材が集まっている。また、会社が所在する三島市は、東京や神奈川などの関東圏の会社でもアクセスがしやすく、多くの販売先が見込め、地理的な優位性がある。

代表的な製品、サービス、設備などは？

造作材や建具材も扱っているが、品揃えの豊富さからいえば、代表的な製品は一枚板で、針葉樹、広葉樹、国産材、外国産材など、多くの樹種・サイズの豊富な在庫を誇っている。家庭用のダイニングテーブル、リビングテーブルに加え、店舗向けのカウンターや客席テーブル、オフィスの会議用テーブル、デスクの天板など幅広いニーズに答えている。

自社倉庫では豊富な製品在庫を保有し、「谷田木材に来れば欲しいものが見つかる」というロコミの広がりとともに来店客は増加しており、その場で実物を確かめられ、購入できることが顧客の満足度を高め、売上に結びついている。また、注文に迅速に対応するために、自社配送を基本としており、トラック3台を保有し、専属担当を配置している。

今後の展望をお聞かせください。

これまで、機械・設備に投資をしてきたが、それは将来に対する投資であり、攻めの経営といえる。同業者と同じことをやっていたのでは売上増加は図れない。常に新しいフィールドを切り開く熱意と行動力が求められる。リスクをとり投資をし差別化をはかり、ナンバーワンではなく、オンリーワンになる道を進み続ける。モットーとするのは、今まで継続してきた売る努力を今後も絶やさないこと。たとえば、仕入れに行けば、そこに集う業者に谷田木材の製品の売り込みをする、取引先から出店を頼まれれば出張で展示販売を行うなど、提供できる製品の種類や品質の良さ、自社の加工力を対面で伝えることを継続して、新たな顧客の開拓を進めていきたい。



木材幅1250mmまで対応するプレナーサンダー



ナンバーワンではなく
オンリーワンを目指し続ける
と意気込みを語る
創業者 窪田明氏

取材日：令和8年3月17日

田方地区木材協同組合連合会 谷田木材

代表 窪田 秋子

本社・加工場：静岡県三島市谷田1539-34

TEL. 055-972-5544 FAX. 055-972-7769

Mail：info@yatamokuzai.com

創業：1986年

事業内容：天板、建具材、造作材の仕入れ・加工・販売
従業員数：10人（パート含む）

URL：<https://yatamokuzai.com/>



加工や塗装の技術を活かし椀など小物も製作